

《2013 年度》
牧場部門事業計画

責任者 松田正幸

2013 年度より牧場部門の管理運営を全て社会福祉法人が責任を持つことになった。人を耕す「教育農場」としてのデンマーク牧場の歴史を踏まえ、更に地域に「開かれた牧場」として発展させて行かなければならない。

本年度は、宗教法人より引き継いだ事業を、社会福祉法人の公益部門、収益部門に分割して行い、運営上においても会計上においても整合性を持ち、かつ途切れることなく着実に遂行していく。何より自立した運営を原則とし、社会事業本体の経営を脅かすことなく、本体事業を支え、深めるといふ牧場事業本来の役割を担いたい。

1. 牧場運営（公益部門）

- ① 乳牛、肉牛をはじめ、羊、鶏等の家畜（経済動物）は、飼育することによる教育的要素を踏まえながらも採算性を積極的に取り入れた経営を行う。
- ② 採草地を効率的に活用し、飼料として欠かすことのできない干草づくりをスムーズに、かつ収量の増量を図る。
- ③ 「酪農教育ファーム」としての活動を学校や地域の関係者に PR し、利用者の増員を図る。
- ④ グリーنزフェア（5月3日）は法人全体の行事として取り組む。
- ⑤ 「ワークキャンプ」等、牧場を活用したプログラムの利用を図る。

2. 乳製品等販売（収益部門）

- ① 乳製品の製造責任者が社会福祉法人に変わることで、名義変更等に関して、手続上の煩雑さがあるが、各機関へ丁寧な説明を行うことで、スムーズで確実な移行を行う。
- ② 牧場内の直営売店「グリーングラス」は、訪れた人にとって、楽しい場所、思い出に残る売店となるように創意工夫する。
- ③ 自家消費分の乳製品として、法人各施設は積極的にその購入を図る。
- ④ 法人のホームページを通して、乳製品を積極的に PR し、通信販売を含め販路の拡大を目指す。

今後、社会福祉法人の財産であるデンマーク牧場というこの「宝の山」をどう生かし、どう活用していくのか、それぞれの施設において、知恵を出し合い、それを法人全体の場で協議し、合意を得ながら進めていきたい。